

ムダにするな水俣病の経験

進む公害総点検

決め手“企業の誠意”

有害部門は減る計画

水俣市の公害は「水俣病」に代表されているが、その他の公害にも目を向けようといま企業を含む市民の総点検が行われている。十一日から月末まで、水俣病だけでなく、大気汚染その他で市民は被害をこうむっている。水俣病の経験を生かさないためにも、当然行われなければならない点検だ。以下その内容をのぞく。

「化学」に弱い市民たち

チッソ水俣工場は現在合併化の発生源は、大船に減るとみられる。同工場はカーバドが中心に酸、ガス化、カーバドなどの各工場が閉鎖される。このため公害が、そのカーバドが止まるため

に、それに関連する諸工場も止まる。た。溶化装置のサイクレーターにはいる腐敗も減らすことを工場側もあけている。

残る公害の懸念のある工場は、加里変成部門である。塩化カリに硫酸を加えるさい、塩酸ガスが発生する。現在この工場からの煙は

工場の裏山の煙突を利用して排出する。しかし最近、煙突工事中、塩酸ガスがもれた事故があった。これら事故を防ぐためにも、工場内に環境整備委員会を組織し、

約八千六百万円をかけて加里変成工場の塩酸ガス対策をする。

その他の工場では、チッソ水俣工場内の日本硫酸工業の煙。ことし四月から操業を開始したフエロシリコン（製鋼用の脱酸剤）工場。七億二千万円の総工費のうち集じん装置に一億二千万円をかけた自慢の工場だが、時々集じん装置が故障し、そのたびに干秒程度、生の煙が出る。工場側、煙の内容物はケイ酸物。

耐火レンガの原料マックスシグ・クリンカーを生産している新日本化学は、排水と煙。付近地域の白濁と白い粉が降る。有害物質はな

いというのだが、不快感を誘うことが指摘されている。

以上がおおむね公害になつてい

る。総点検はこれらをもひとつひと

つチェックしようとするものだ。

とどうも市民代表の謝辞は「化学

にうとい」と。市が総点検のメ

ンバーに配った公害資料の総説で

は「化学工業の発展はめざまし

く、市のさやかな調査機関をも

つては公害発生の根拠を的確

に掌握することは困難である」と

いつた説明すらみえる。

十一日の各工場側からの説明も

一方的で、質問も少なかった。工

場の排水口視察でも同様だった。

だから、個人会などの生活苦感

からとらえた「煙がひどい」とい

うこと、各工場側の説明とがど

うち食い違っている。この点検

は、結局、公害防止の決め手

は、企業側の「誠意ある対策」よ

りほかに最終的手段はないこと

がハッキリしたとある市民は語

っている。

しかし、化学に弱くても、総点

検に参加した人たちは総点検の感

受を認めている。「総点検の目」を

光らそうという姿勢で、やはりこ

れは繰り返さなければ生活環境は

守れないと言っている。



チッソ水俣工場の排水口付近を見る市民代表たち